

3. 2. 造船工学科発足時の先生方と専門教科など

新制横浜国立大学工学部の造船工学科発足時の教授陣は工専時代からの吉岡先生以外は昭和 21～25 年に着任された。

発足時の教授陣は以下の通り

教授： 成島 秀（三菱横浜）、南 義夫（木材研究所）、
小山永敏（三菱長崎）

助教授：吉岡 勲、丸尾 孟（東大院）、沢村鶴松（日立造船）

講師： 永井 保（振動）米原令敏（機関）、谷 初蔵（航海）、
山名正夫（航空）

註（ ）内は前歴または担当を示す。

造船工学科の教科の一般教養科目は立野の旧師範学校の校舎で原則として入学初年度に行われ、入学 2 年目から弘明寺の旧工専時代の校舎で専門教科の授業が行われた。その詳細は下記の通り。

第一講座：流体力学、抵抗推進、動揺、旋回、復元性、理論演習、
工学実験等

第二講座：材料力学、構造力学、応用力学、振動論等

第三講座：船舶概論、鋼船構造、商船設計、木船、漁船、特種船、
設計製図等

第四講座：造船幾何、施工法、船舶法規、商船艤装、船舶機関、
航海運用等

第五講座：図学、溶接工学、電気工学、機械工学、航空工学、工場実習
等

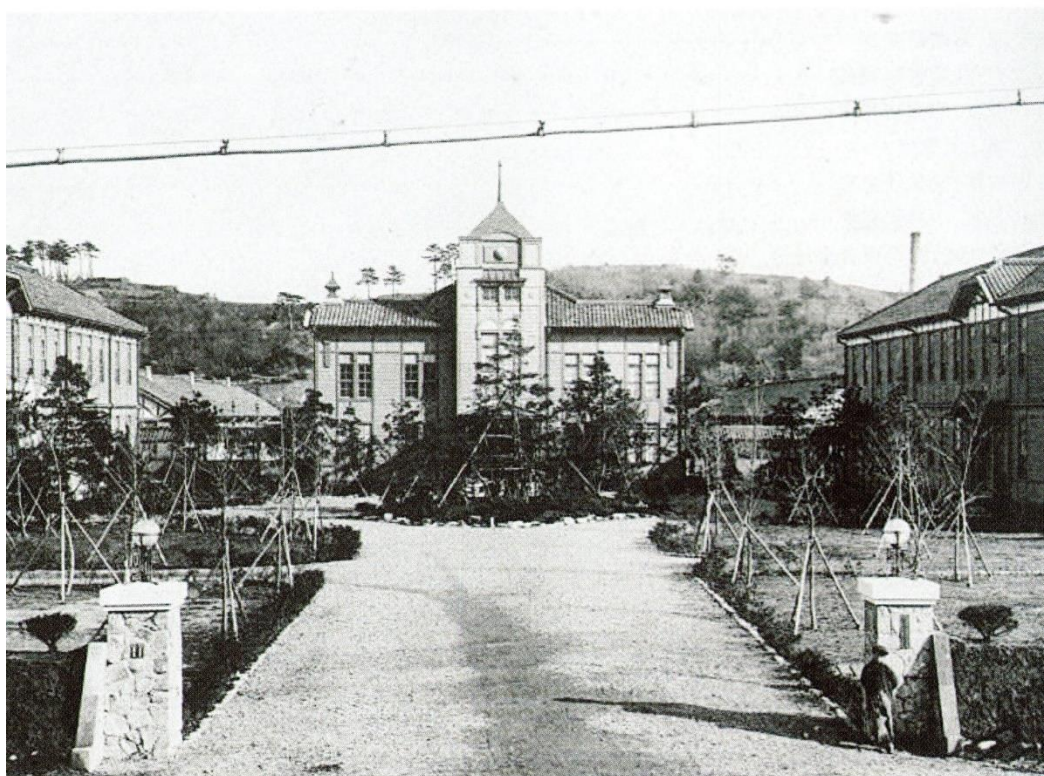
この内容を見ると質量共に大学の名に相応しい講座だったことが窺える。当然のことながら必修科目と選択科目の別もあったはずである。各教官の努力の結果習得単位数は全国一位を続けたのである。

(以上は横浜国大船舶海洋航空宇宙工学 80 記念誌から転載した)

我々が昭和 29 年に入学し 30 年から弘明寺に移った時の時の状況

教授陣は講師としては山名先生だけが航空工学の授業を行っておられたと記憶している。発足時にあった講座はその後の海運・造船業界の発展とともに不必要なものは適宜変更されたものと思うが発足時と大幅な変更はなかったと思う。

(提供 杉本 良樹)



横浜高等工業学校時代の校舎 (横浜国立大学理工系創立 100 周年記念誌による)



弘陵造船航空会のロゴマーク